参考資料２

令和6年度　大田区地域ケア会議区レベル会議の開催にあたり、聴取した事前意見及びその回答は以下のとおり。

資料番号	ご意見・ご質問	回答
2	各地域の報告書にあった課題は、どの地域でも問題となっていることなので、こういう形で情報が共有されることは素晴らしいと思います。 引きこもりとは違う面があるかもしれませんが、最近では厚労省が支援ぽーらるサイトを立ち上げているなど、行政サイトでもいろいろな情報提供がされていますので、似て非なる支援の応用なども検討できるといいのではないでしょうか。 また、セルフネグレクト状態にある人への支援の出席者は54人と多く、介護を受け入れないなど日々直面する課題であるため、この会議後のフォロー、継続検討などもされるのかも気になりました。	厚生労働省の事例をもってのご意見をいただき、ありがとうございます。区としても、各地域の報告書にあった課題を区レベル会議にて情報共有し、個別レベル会議、日常生活圏域レベル会議に携わる地域の皆さまに還元できるよう、事業を推進してまいります。 また、今回取り上げたセルフネグレクトは、雪谷地区おいて地域ケア会議を開催するにあたり、様々あるテーマ候補の中から選択されました。その回ごとにテーマを設定するため、現在のところ同一のテーマを継続検討する予定はございません。セルフネグレクトに至るには様々な要因があり、その状態もそれぞれのケースで異なります。一つの窓口だけで解決することは難しく、支援には長い時間を要することが多いため、医師も含め様々な支援者がセルフネグレクトについて知識を深め、グループワークを通し顔が見える関係性を構築できたことは、今後の個別支援を行う上で有益な土台作りができたと考えます。